



「ちよっ…
もお〜…揉むなあ…っ…!!」

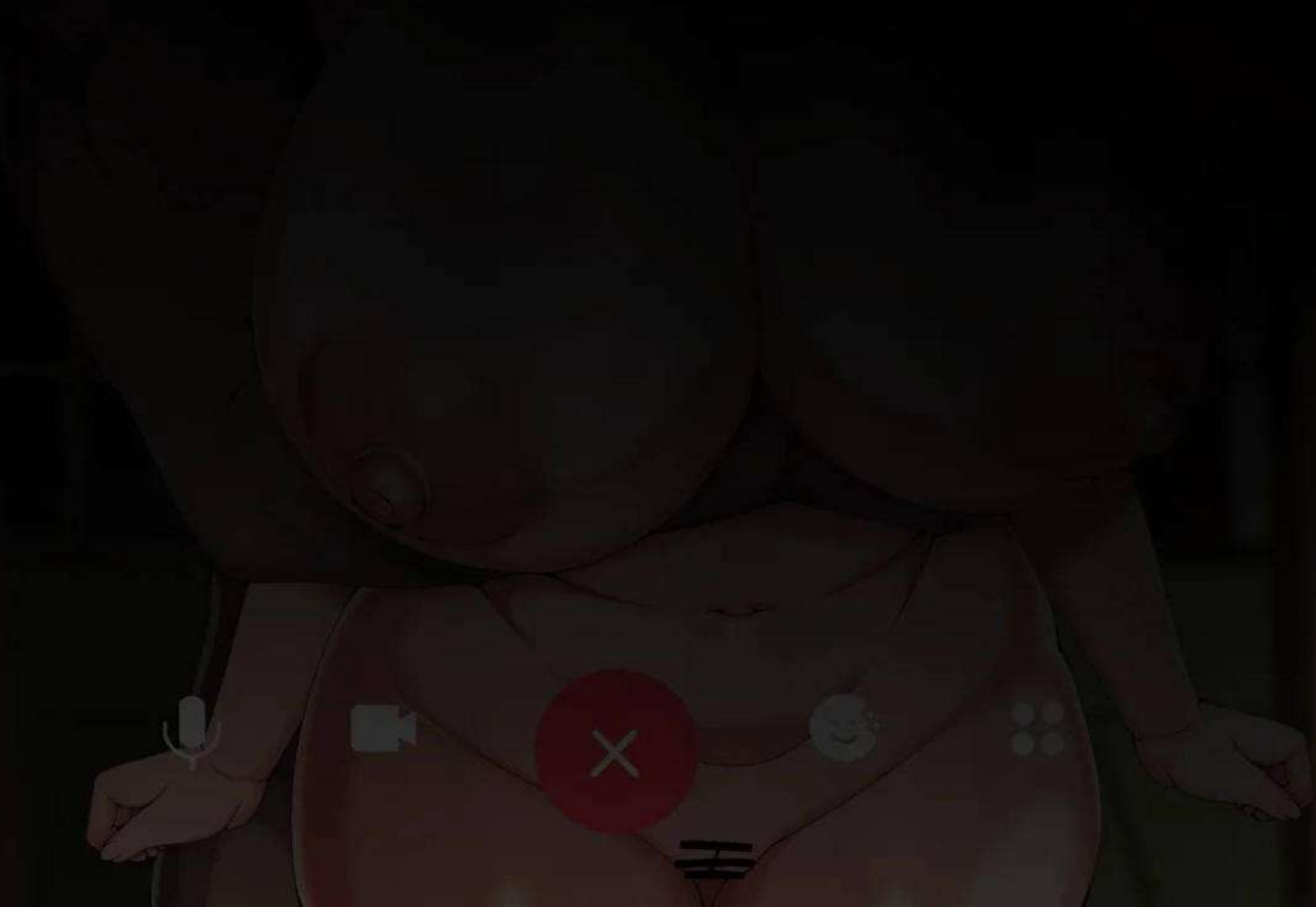
「ええ〜別にいいじゃん♡
昔散々揉んでやったるお?」

もみっ♡
もみっ♡

「今は…っ…ダメっ!!
彼氏が見てるでござるから…!!」

「ちえっ、わーったよ…」

「あ…あの…」



「はいはい!!
すんませんねー
勝手に盛り上がっちゃって♡」

「もお……」

「ご、ご……」



「久々にいろはとセックス出来ると
思ったら激つちやつてえり……
気持ちわかつてくれますよねえ？」

んズッ

「このデカ乳とかあ
俺がわざわざ育ててやったしい」

「俺といろは
ガチ相性よかつたんでえり」



「もお!!そういう気持ち悪いこと
言うなでござる!!」

「ごめんごめんて♡
テンション上がっちゃつてさ♡」



「ほんとと最悪……
なんでよりにもよってこいつと……」

「ご……ごめんいろはちゃん……
信頼出来る人探すのも、大変だし……
いろはちゃんも立場つてのがあるじゃん……？」

ハア……
///



「こんな奴やつぱり
信頼できないでござるっ!!」

「こんなやつとはひでー言われ様w」

「白々しい…君が浮気ばっかりしてたの
忘れてないでござるからなっ」



「まーまーそんな怒んないで♡」

「怒るに決まってるでござろう!」

くちゅ!!

「あ…えと…その…」



「やっぱり…やめる…?」

「やめたいでござるけど…
どーせまたやりたいって
泣きながら言うんでござろう…?」

「泣かれるのも後味悪いでござるし…
……やるでござるよ…んもう…」



「へへ、そんなこと言っでさあ：
ただ久々に俺とやりたいただけだろ♡」

「あーもうきもいきもじきもくら!!」

「ジタバタすんなよ♡
もう逃がさねーぞ♡」



「むう………気持ち悪いのが
お尻に当たってるんだけどお……」

「当ててんだよっ♡
交尾したくてたまんねーだろお？」

「そんなわけないでござろう……
あーもしつこい……」

グ
グ
グ
♡
♡
♡



「ほらっ!!ちやっちやとやるでござるよ!!
早く終わらせて帰らせてえ!」

ムム

イライラ

「はいはいっ♡」

「.....あのう....」



「あつと...お...すんません彼氏さあん
こつちで話進めちやつてえり」

「い...いえ...いいんです...」

「ゴムあり、フェラなし、
キスなし、通話は繋げながら...
口説くのも禁止、この一回きりで関係は終了...」

「でしたっけえ？ つつまんねえの」



「寝取らせプレイなんてさあゝ寝取られるかどゝかのギリギリのところ楽しむのが醍醐味なんじゃないの？」

ムッ……

「寝取らせとか言うやつべえ橋渡つといてそゝいう予防線貼るよわつちいとこ気に食わないわゝ」

「ちよつとおゝ彼氏の悪回言うのは流石に許せないでござるよ……？」



「いやいや事実じゃん
お前も寝取らせマゾ彼氏に嫌気差してんじゃねーの？」

「……まあ……こういうこと頼まれて……
いい気はしないけどお……」

「う……」



「ほらっ、いろはもこー言ってるしさあ
ひひっ…罰としてえ…
通話繋げながらはなしっつーことで」

「はあっ…!!」

「いろはもそれでいーよな?」



「…ん…恥ずかしいし…
それでいいでござるよ」

「えっ…ええっ!？」

「はいっ、そーいうことで♡」

「他はなるべく守るんでえ
ドキドキしながら待つててくださいよお」

「ちよつちよつと待つ…!!」





『あああああ…!!』

ミィンナ…

ミィンナ…

ミィンナ…

ミィンナ…

ミィンナ…

「やっちゃん たやっちゃん たやっちゃん たっ!!」

「寝取らせなんてやるんじやなかったあ!!
あのいるはちゃんの顔…今まで見たことないような顔してたっ…」

「やばいやばいやばい……
どうしよう……」

「通話も繋がらないや……うあ…」

「いるはちゃんの元カレも…なんか…
話に聞いてたよりずっと女慣れしてそうだったし…」

「いつ…嫌だっ…嫌すぎるっ……」

「っほお、壮観壮観……♡
デカ乳たまんねえ……♡」

「キモイこと言うなでござる……!!」

ビキッ♡



「満更でもねークセに♡」

「思い出してんだろお…？
俺のデカチンで毎日毎日
たあーっぷりパコられまくって
気持ちよくなってた時のこと…♡」



アッ

レス...

「そ...そんな時のこと...
思い出すわけないでござろう♡」

「そもそも、忘れたでござるよっ
そんな昔のことっ」



「嘘つけ♡交尾すつぞって言った途端
自然とこの体勢になったクセに♡」

「しつかり教え込んだもんなあ♡
みっちり鍛えた足腰で俺のちんぽを
丹念にしごくように♡」

「…それは…っ…
君が横になつて…
来いよって言ったからあ…」



「横になつてゐる人とする時なんて…
やれる体位限られてるしい…」

「ゴ…」

「はいはい
そーいうことにしといてやるよ♡」

「ほおら、さつさと交尾すつぞ♡
あのマゾ雑魚彼氏に報告
しなきゃなんねえもんなあ♡」



「もおっ！だから彼氏のこと
悪く言うのはやめてってえ…」





おっ♡

「オラッ♡」

グッ♡

ズッ チュっ♡

ズッ



「ふう〜…♡
みつちみつち…やっべ…♡
昔よりキツくなってるねーか？♡」

「おつつつ…♡
おううう…つぐう…♡」

「…♡」

「グ♡」

「ゴ♡」

ドキッ♡

「おほおほ言っ
てねえで
アレ言えよ、
覚えてんだろーが♡」

「言わねーとパコ
パコなしだぞお♡」

「...♡...♡」



「かつ…風真の……ツツ…♡
きつきつサムライおまんこでえ…♡」

「大好きな○○様のおっ…♡
カリ高エロ長チンポっ…♡」

「ちゅこちゅこ、しこしこ…♡
ご奉仕させて…♡
いただくでっ…♡…ちゅる…♡う…♡」



ぐっ♡

「ふうー…♡しっぴかり覚えてんじやん♡
相変わらずたまんねえ口上だわ♡」

「それじゃあ…ご褒美に
しっぴかりパコってやんねえとなっ♡」



「どおだあ？久々の俺のちんぽ…
たまんねえだろお？んん？」

いぐ♡
おっ♡
おっ♡

バル♡
ン♡
ッ♡

ブル♡
ン♡
ッ♡

パ♡
ン♡
ッ♡
パ♡
ン♡
ッ♡

バ♡
ス♡
ッ♡
ズ♡
チ♡
ュ♡

「しゅわん♡♡♡しゅわん♡しゅわん♡♡♡」

♡グッ♡♡♡

♡グッ♡♡♡

「彼氏のと比べてどおだあ？
まゝ比べるまでもねえけどなあ♡」

「それっはっ…♡」

アチュっ♡

グチュ♡





「言えないっ…♡
言えないでござるう…っ♡」

「はあ？言えねーの？それじゃあ
みっちりお仕置きしてやんねえとな♡」

ビクッ♡

ビクッ♡







「オラオラそろそろ言わねーと
ゴム外して生でやつちゃうよお？んん？」
「ぐわいっ…♡」



「んん？」

「あ...の...」

ドキ♡

ドキ♡

ドキ♡

ドキ♡

///

///

///

「君の方がずっと凄いでござるよっ!!
彼氏のちっちゃいのよりずっとずっとおっ♡」

「長くて太くて風真の弱点全部知ってる
えっちな腰付きもすっごい好きだしっ♡」

「彼氏よりも君の方がっ…♡
えっちは…っ…好きだからっ…♡」



「だからっ…生は勘弁してっ…
欲しいでござるっ…♡」

「ふひっ…♡
ああゝ優越感そそられるう…♡」

「しやあねえなっ♡お前のエロ媚びに
免じて中出しは勘弁してやるよっ」



「オラ!!
ゴム越し射精くらえっ♡」

ゾグッ♡

ゾグッ♡

ビュフフッ♡



「…ぐつつ…♡
ふうふう…♡」

（アツイアツイアツイアツイ…♡
ゴム越しなのにこの熱さっ…♡）

（本当に…っ…彼氏のとぜんっぜん…♡）

（あっやばまたいつちやう…♡）



「う……ぐうぐう……♡」

「へっへっゴム出しでイッたのかよ……♡
やっぱお前ガチでマゾだなっ……♡」



ズーッ♡

「彼氏じゃ味わえない本気マゾイキ…
今からたっぷり仕込んでやる…
……覚悟しろよっ…♡」

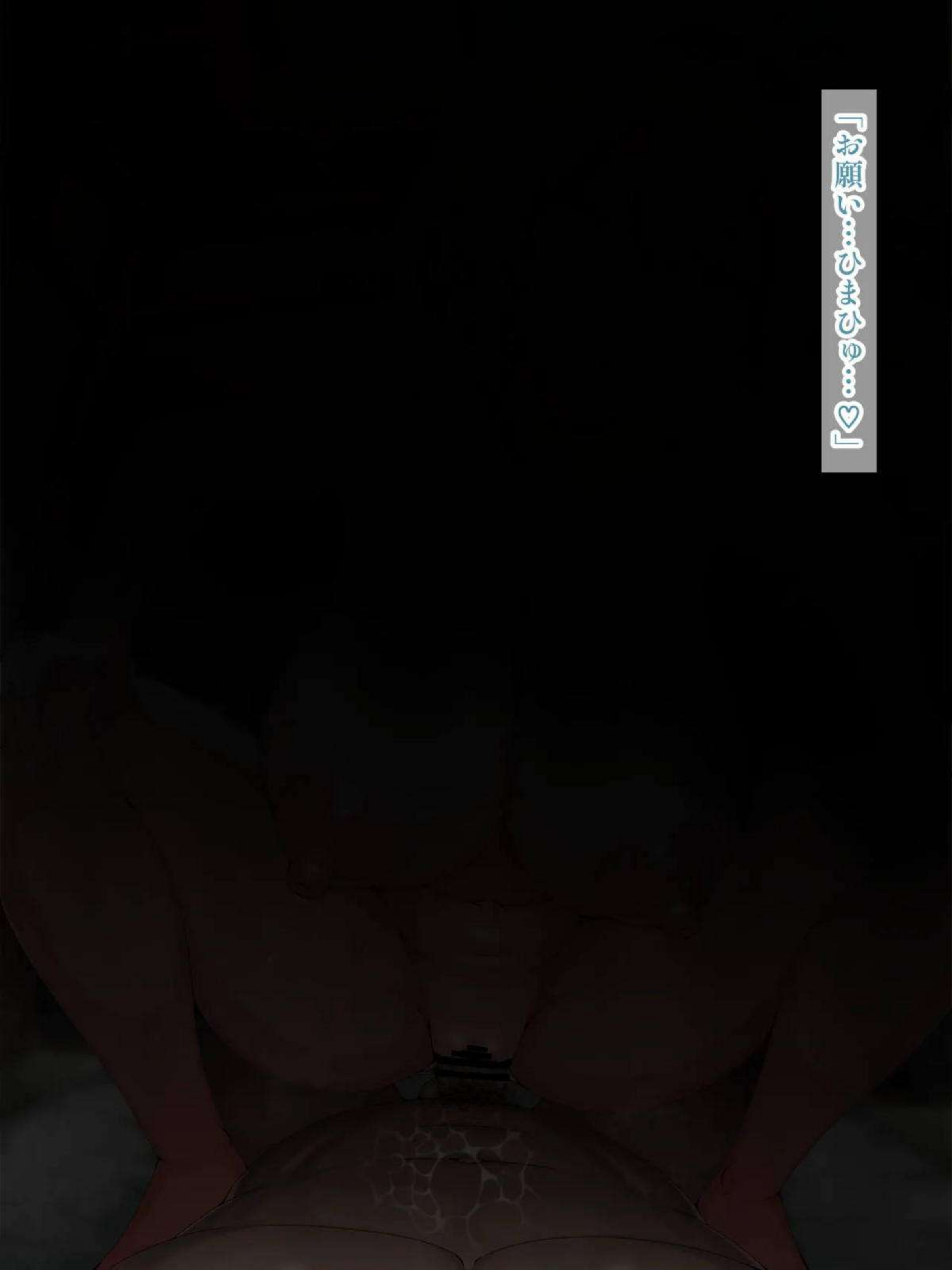
ガクッ♡

ビッ

チャア♡

ガク♡

『お願い…ひまひゆ…♡』



(はあ…はあ…まだかな…ううう…
ああ、どうしよう…
このまま電話かかってこなかったら…)

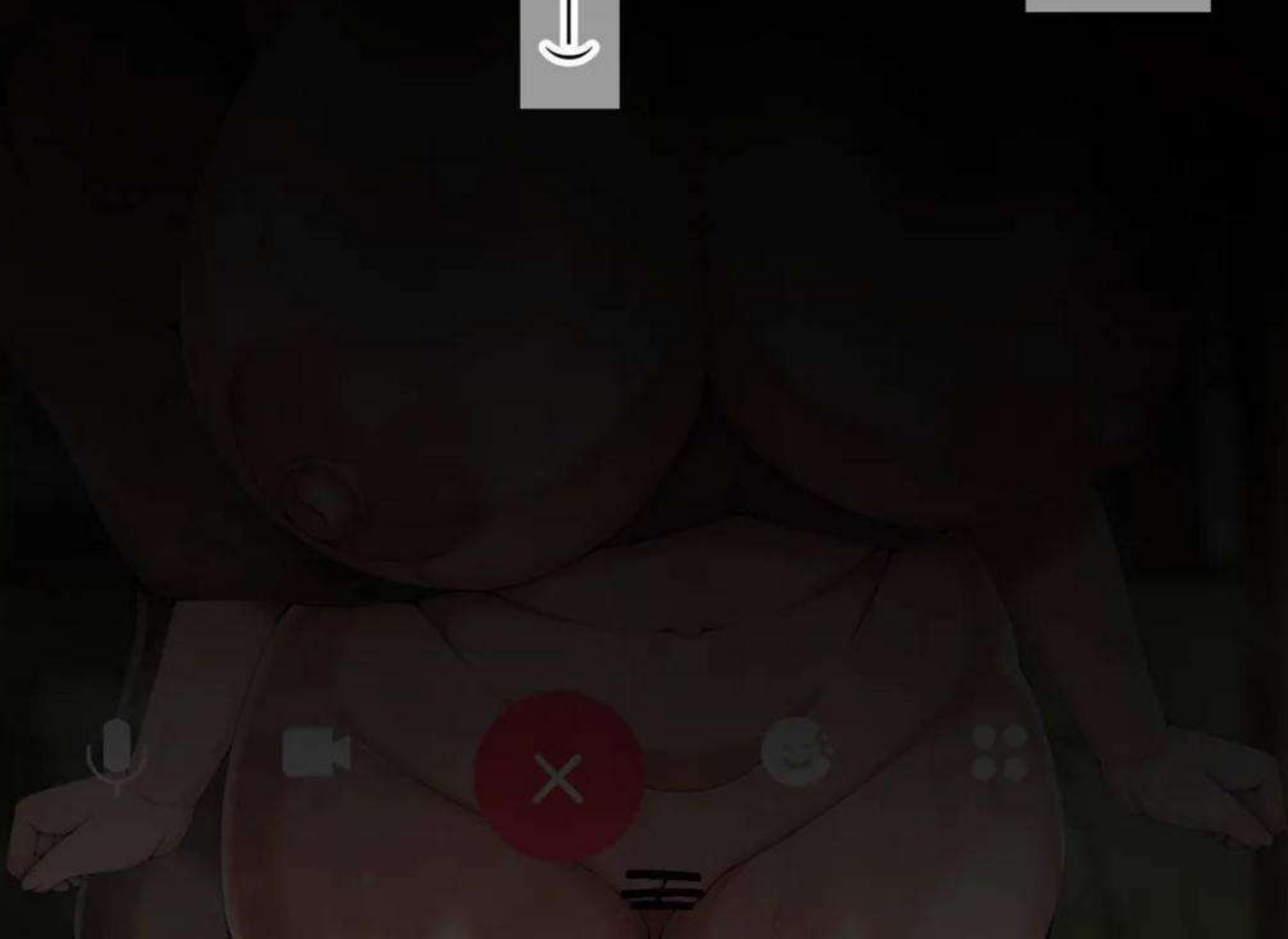
(胸が痛い…息が早くなる…
頭も痛い…汗が止まんない…)

(怖い、怖い、怖い、怖い…)

(寝取らせなんて…やるんじゃないか…)

プルプルプル…

「はっ…!!」



『もしもしっ!!
いつ、いろはちゃん!!』



「電話遅れてごめんなさいねえ〜♡
彼氏さん♡」

「…うっ…うっ…うっ…!!」

むっ♡

あっ♡



「……遅れてごめんでごさる……
ちよつと……全然離してくれなくて……」

「お前がそれ言うかよ♡
禁止されたこと
進んでやってきたくせに♡」



「ちよつそれは内緒…っ…!!」

「えっ…何…何したの…」

「ええ…?」

ドキ♡
ドキ♡

ドキ♡



「お掃除フェラ、キスしながらえっち…
セフレ宣言、次の予約取り付け…
ってとこっすかね…♡」

「え…え…嘘だよね…しないでって、あんなに…」

アセ

アセ

ニ

「あーあー!!してない!!
してないでござる!!」

「嘘つけて♡
口元俺の陰毛つきっぱだぞぉ♡」



「あつあつあ…っ…
ぜっぜんぶデタラメでござるからな!!
風真のこと信じて欲しいでござるっ…!!」

「…ま…は…?」

「え…?」



「生は…?」

ドキッ…



「生はしてない…よね…?」



「ず...ず...♡」

||ん...



「フュー...♡」

